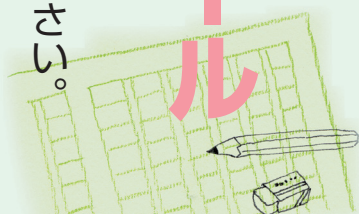


夏休みの

詩と作文コンクール

夏休みの生活をふり返って、

詩や作文を書いて送ってください。



ともだち
友達の作品

募集要項

★募集作品 詩と作文

・題材 夏休みの生活から生まれたもので、題は自由。
・文字数 作文：四〇〇字詰原稿用紙3～5枚程度。
詩：30行程度

★しめきり 9月10日（木）

★審査 岐阜県小中学校長会で審査します。

★表彰 入賞者（特選・佳作・入選）に賞状をおくります。

★送り先 〒500-8816 岐阜市菅原町三（岐阜県校長会館）

「夏休みの詩と作文コンクール」係

応募の
注意

- ① 作品は自作、直筆（コピー不可）のもので、今までに発表していないもの。
 - ② 応募は、1部門1人1点とする。
 - ③ 作品には、部門・題名・学年・氏名（漢字にはふり仮名をつける）・郡市名・学校名と先生の名前を書くこと。
 - ④ 作品は、返却しません。
 - ⑤ 応募作品の著作権は、岐阜県小中学校長会に帰属します。
 - ⑥ 特選・佳作作品は、作品集『ぎふの子』としてまとめます。
- 入賞作品は、岐阜県校長会館発行の出版物で紹介することもあります。
- 募集要項に合っていない作品は、選外になることがあります。



未来に残したいもの

揖斐郡 温知小学校 林 宏真

おばあちゃん家に車を置いて、アスファルトの道を徒歩一分。道路わきの温度計は、今日も三十六度。右に曲がって、竹やぶの小道をさらに一分歩く。ジャーン、と水の流れる音とジーン、ジーン、というセミの声がうるさい。うす暗いそこをぬけると、ゴーン、という大きな音と共に、まぶしい光がぼくたちを包む。

今年、ここに来るのは、五回目。夏休みに入ると、毎年何回か来る。ここは、いび川の支流、かす川。どんな時でも冷たい水。最初入る時は、いつもちゅうちゅうする。少しずつ入って行って、体がなれたら、こっちのもの。泳いだり、落差工をたき登りする。

（中略）

「昔は、あの橋の下がもつと深かったんや。今は、浅くなってまったな。川もだいぶ変わった。」
と言うお母さんの横顔は、どこかさびしそうに見える。

お母さんが昔見ていた景色は、今のぼくには、分からない。きつと、今よりずっと、自然があふれていたのだろう。ただ、ぼくは、ぼくが知っている今のこの川を守っていかなければいけないと思う。ぼくがお父さんになった時、子供に、このエメラルドグリーンに見える、とう明な水の中を見せたい。
三十年後の未来、ぼくの子供といっしょに、飛びこみができる川であってほしい。